

「平成 28 年度第 5 回阿見町外部評価委員会」議事概要

審議会等の名称	平成 28 年度第 5 回阿見町外部評価委員会
開催日時	平成 28 年 11 月 7 日（月） 午後 2 時から午後 4 時まで
開催場所	阿見町役場 305 会議室
議事次第	1. 開 会 2. あいさつ 3. 議 題 1) 報告書（案）について 4. その他 5. 閉 会
出席者	<b>【委員】</b> 山口忍委員、白岩雅和委員、橋本英之委員、齋藤光子委員、吉原一行委員、井上正道委員 計 6 名（欠席なし） <b>【町】</b> 小口総務部長 財政課：大塚課長、糸賀係長、高橋主任
公開/非公開の別	公開 *傍聴者：なし
会議内容	議事は、議題（1）報告書（案）について事務局より項目ごとに説明後、質疑応答が行われた。内容は以下のとおり。  <b>【委員】</b> ・妥当か妥当でないかという 2 択が普通なのか。妥当だという評価の事業も改善がされたということなので、委員会で認めたにもかかわらず改善したようにも聞こえてしまう。一つひとつの評価では、条件を付けて、こういう改善をしてもらえれば○（妥当である）という評価もあった。委員会として妥当であるという評価だった事業でも、何か意見があり、それで改善がされたのかと思う。条件付きでの○で、だから改善されたという形ではないか。6 人中 4 人なら○になり、6 人中 3 人なら×（妥当でない）になってしまう。6 人中 4 人が○と評価しても、改善の余地を含んでいて、それに対して対応したというものでは。改善の余地があった事業は△でも良いと思う。（委員） ⇒評価結果としては○か×になってしまう。○でも付帯意見付きの○もあった。回ごとに委員会としての「妥当である」「妥当でない」を評価していただいたので、それをもとに入れている。（事務局） ・一覧表を見た時に、6 人中 6 人でも 6 人中 4 人でも○だが、意味合いは違う。（委員） ・一覧表で「改善の必要なし」とあり下に「→大幅に改善」とあるが、分かりづらい。（委員） ・「改善の必要なし→大幅に改善」は記入しなくて良い。（委員） ・当初、外部評価委員会を始めた時に△は無かった。△があれば△となる事業はたくさんあった。6 人中 5 人でも 6 人中 4 人でも、×と評価した人もいる。その意見に対して改善ができれば担当課の方で改善の方針を入れたというものだろう。（委員） ⇒報告書の中で指摘事項をまとめているので、それを読んでいただければ、単純に○ではないというのが分かるようになっている。（事務局） ・6 人中 6 人が○でも改善した事業がある。評価として、本当は△とつけたいところだが、○に評価したものもある。それが 6 人集まって、改善の意見があったの

	<p>で改善したということだと思いが、6人中4人の○で改善していない事業もあつたりするので、この表だけ見るとおかしく見える。(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4ページの表の下に、「妥当である」の場合でも、委員の意見を踏まえて追加修正しているものがあるという旨を付記した方が良い。(委員)</li> <li>・6人中6人が○の事業で改善するのは良いが、6人中4人が○の事業で改善していない場合に、なぜ改善していないのかと思う人はいると思う。(委員)</li> <li>・町民の方は細かい部分よりも4ページの結果一覧を見る。これを見ただけで全体が分かるようにすると良い。(委員)</li> <li>・6人中4人だとしても、委員会として○となれば、担当課は○だと思って対応したかもしれない。(委員)</li> </ul> <p>⇒委員会として○だとしても、出された意見には答えるような形で対応方針を作るように担当課には指示した。実際に反映できるかどうかは担当課に任せている部分もある。(事務局)</p> <p>⇒42 ページでは、対応方針で見直しがされたものがグレーの塗りつぶしで分かるようになっている。例えば、グレーの表示の項目は、4ページの一覧表でも見直しがされたと分かるようにするという方法もある。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6人中4人ということは何かしらの意見が出たということなので、予算的に無理という回答ならそれでも良いが、検討をしたというのが見えなければならない。(委員)</li> <li>・○の評価だが意見があったものや、6人中6人が○だったとしても意見があったというのは、意見を踏まえて各課で見直しを行っているというのは付記しておいて、この表だけで分かるようにした方が良い。(委員)</li> </ul> <p>⇒4ページの表の下に付記を入れ、見直しをしている項目はこの表で分かるように修正する。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙やホームページで表示するのは報告書の抜粋が望ましい。平成26年度、平成27年度の報告書と違ってしまうことで、町民の方に混乱を招くのであれば事務局で検討いただきたい。(委員)</li> <li>・外部評価をなぜ行っているかという、内部だけでは不十分だから。それに対して行政が動いたかが町民の知りたいところ。外部評価と町との関係がきちんとされているかというのを町民に伝える義務がある。○か×かをつけ、それが反映されたかどうかは町民に知る権利がある。(委員)</li> <li>・表だけみると、何もしなかったのかとも見られる。○でも見直しをしているという部分を見せるのも一つ。(委員)</li> <li>・実際に見直しをしていけば町民に見せるべき。ある無しを見せつけるのではなく、本当に機能していて、内部評価では馴染み合いになってきたのを外部評価を入れることで指摘があり、それに対して町が動いているというのを町民に示さなくてはならない。改善しなかった部分は、改善をしなかったのはなぜかというのを答える必要がある。(委員)</li> </ul> <p>⇒各事業の対応方針は、それぞれの項目の担当課の考え方の欄で、こういう意見があったのでこういう風に改善する、こういう意見があったが対応できないというのを記入する形になっている。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当課が考えているということならば、見直しをしているということにはならないか。見直しという言葉に幅があるが。見直しをした結果、委員から出た意見とは違うが、別の方向に改善したというのも見直しになる。(委員)</li> </ul> <p>⇒ここで言う見直しは、元々考えていた方針を変える場合に見直し有り、元々の方針通りに今後も進めていくなれば見直し無し。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の規模で継続ではないが、拡大まではしなくて良いというものがあった。選択肢として選びづらいという部分もある。(委員)</li> </ul> <p>⇒例えば、見直し無しとしていても、小さな改善は打ち出しているものもある。見直しが有りか無しかは、報告書として町民が見た時には大事になるが、大事なのは、担当課がどうしていくかということに反映されれば、外部評価の効果はあ</p>
--	---

	<p>ったと考えている。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 元々の方針が「一部改善」で、外部評価に対する担当課の対応が「見直し無し」というのも違和感がある。「見直し無し」にはなるが、業務は改善する。二要素ある。(委員)</li> <li>• 一部改善という方向性を受けて妥当であると評価した。最終的には改善することになる。(委員)</li> <li>• 見直しが無しだとしても、担当課の考え方に何らかの改善の内容が記載されていれば、方向性が見直しがされているということ。そういう項目は、担当課に確認して方向性を見直しを有りに修正してはどうか。(委員)</li> </ul> <p>⇒確認し、修正する。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 評価は○でも、担当課の考え方として対策を進めると書いてあれば見直し有りが良い。現時点で×の評価で見直し無しは無い。さらに、○でも見直しするというのが入ってくる。(委員)</li> <li>• 改善のグラフは、ヒアリングを受けていない事務事業を含めた全事業での割合で、外部評価でピックアップされた事業の影響を受けて自ら改善したもの。こういう点は外部評価で指摘されるという傾向があると思うが、それが反映したということか。他の職員が、評価された事業を見てこういうところは指摘されるというのが伝播したということか。(委員)</li> </ul> <p>⇒そうです。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 全事業の 281 事業のうちの割合だというのを分かるようにした方が良い。評価対象となった 9 事業と勘違いされるかもしれない。(委員)</li> <li>• 図の番号、タイトルも入れた方が良い。(委員)</li> <li>• 50 ページ「担当課の対応の限界」という表現は否定的。「担当課の対応」が良いと思う。「町的意思決定に対する効力に関する課題」は分かりにくい。「町における課題」のようなシンプルな表現が良いのでは。(委員)</li> <li>• 意思決定というのは議会のことか。(委員)</li> </ul> <p>⇒担当課として方針を決めて、町として予算などに反映させるかといったこと。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 内部でできなかったことを外部から言ってもらいたいというのがあるだろう。それが本当に町内部に反映するかどうかをチェックしなければならない。町民の立場になっていない、町民に恩恵があるのかというのが疎かになっている事業がいくつかあった。外部評価を、やりっぱなしではなく、それに対して町が努力しているというのが町民に見えなければならない。それが町民にとっても向くべき方向なのかというチェックも必要。機能した外部評価委員会であるというのは委員会としても評価されなければならない。最終的に町民の方もその方向に進めて良いということになるのか、それを取り入れて、向かって欲しいという町民からのチェックが入らないといけない。委員会としては改善して欲しい、町としては予算が無いとなった時に、外部の附属機関では決定ができないのをどうするかという課題だろう。委員会と担当課との間だけではなく、町民からも見られるようにしなければならない。(委員)</li> <li>• 内部のチェックについて、阿見町では町レベルのため、内部統制のチェックをする組織が無い。監査委員は常駐ではないし、監査事務局はあるが、監査事務局自体が監査するわけではない。阿見町は市レベルに近いのだから、監査委員の事務局を内部監査部門のようにして、課員 1 人でも良いから専属で評価や内部統制のチェックをできるようにする必要がある。(委員)</li> <li>• 町内部においてもチェックを行うとあるが、大企業では社員がよその部署のチェックはできない。いずれ自分の身に降りかかってくる。自分の会社の中でお互いの悪い点を取り上げるのはなかなかできない。役場でも同じだと思う。財政課として予算折衝の時に指示するようなことはできると思うが、事業そのものの内容をチェックしようとしたら、所管の部長の責任であり、よその部長や課長はなかなか言えない。(委員)</li> </ul>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政も市になれば監査業務を行う。町は監査業務を行っても良いことになっているが、実際にはやっていない。組織的に整えて活かす方法もあると思う。（委員）</li> <li>・内部で、担当課が出してくる予算がどんなものか、事業の改善が妥当なものかを全課を通して見られる課はあるのか。予算だけでなく事業の中身も。</li> <li>・予算としては財政課がチェックしているのでは。国の財務省と同じ。</li> </ul> <p>⇒事業の立ち上げの部分は企画部門で内容を精査し、予算関係は財政部門がチェックする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それだけでは足りないという提言。</li> </ul> <p>⇒P D C AサイクルのPDまでは企画と財政でチェックできるが、C Aの部分は確立されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提言では具体的な案を出した方が良いと思う。</li> <li>・文章が抽象的。具体的にどこの部門がどうするというのがあった方が良い。</li> <li>・外部でチェックしてもらおうというのが外部委員会としての提言。それが難しければ内部でチェックする書き方にする。</li> </ul> <p>⇒今回3年間実施してもらった中で外部評価委員会は任期が終わるが、町民の視点で見てもらうというのは継続して行う必要があると思う。既存の組織として行政改革推進委員会がある。行政改革推進委員会も町民の方や有識者の方に入っているのだから、来年度は試行的に行政改革推進委員会の中でチェックしてもらおうという考えもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そういうことであれば、一時的でも暫定的でも良いのでそのような書き方をすれば良い。行革委員会の中で検討すると書いてもらった方が良い。</li> <li>・市では監査部局を置いている。阿見町も事務局はあるが、実質的な内部監査は行っていない。収入印紙などの監査は会計課が行っていて、監査事務局は行っていない。例えば部長級の人を一人監査事務局に置くなど、権限が無いと内部監査もできない。内部で他の部署をチェックするのは厳しいという意見もあったが。</li> <li>・できないだろう。大企業の場合は社長直結で置いている。監査室は業務がきちんと進んでいるのか、やり方が適正なのかなどをチェックする。チェックされたとしても、きちんと見直せば問題ない。</li> <li>・町レベルでは常駐の監査部門は無い。監査委員は外部。大企業なら監査役があり、常勤監査役に事務局がある。</li> <li>・50 ページ、対応を求めたが、さらにただすことは行っていないという表現は適切か。（事務局）</li> <li>・「当委員会でさらに検証することはできないから、町の責任で」という流れにしてはどうか。</li> <li>・53 ページ、「自主的な改善提案を引き出す仕組み」とはヒアリング以外にあるのか。</li> </ul> <p>⇒検討中だが、ヒアリング以外には実際には考えられず、ヒアリング形式になると思う。（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある程度、実現可能な内容が望ましい。具体的な方が良い。行革委員会での評価も含まれている。ヒアリング形式に捉われずというのも、何のことを言っているのか分からなくなるので、当委員会のような形式に捉われずなどの表現の方が良い。</li> <li>・外部の視点によると書いてあって、外部の視点を持ちながら、ヒアリングの方式でないものを模索するとしか受け取れない。外部の視点によるとというのが前提に書いてあり、手法についてはヒアリングをしないということなので、このような会議を開かないで外部の評価を簡便にして外部評価を続けるということではないのか。</li> </ul> <p>⇒そういう方法も考えられる。1番では、外部の視点による評価はこれからも行うこと。手法は必ずしも委員会の形式に捉われる必要は無いとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この方式があまりに手間がかかるとか、毎年行うにはということならば、何年か</li> </ul>
--	--

	<p>に1回というやり方もある。ヒアリングに捉われずというのは、ヒアリングのやり方が好ましくないということか。</p> <p>⇒全体の事業数が300あり、ヒアリング形式だと一部分しか達成できない。その他の残る事業もチェックする、改善を促す方策を取りたいと考えている。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒアリングは一部の抜粋であったとしても、全庁的に波及効果があったとまとめている。ヒアリングをやらずに別な方法にするというのは、なぜか。毎年やらなくても何年かおきに実施すれば、内部に対しても刺激になると思う。全課実施したいということか。それを外部でどうやってできるのか。</li> </ul> <p>⇒例えば各部ごとに部長をトップとしてチェックする体制を築いて、チェックしたのについて各部のまとめたものを行革委員会で諮るなどの方式もある。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフから、波及効果が見られたというのは事実。ヒアリング形式の委員会の開催頻度の検討も視野に入れるとか、そういうことも必要。</li> </ul> <p>⇒波及効果はあったので、効果を持続させるのが1番の提言の趣旨。方法は、委員会の課題点も解消できるような方法を検討したい。(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年実施しなくても、3～4年に一度やっていくというのが現実的ではないか。</li> </ul> <p>⇒実際にはヒアリング形式以外には難しいため、「ヒアリング形式に捉われず」という表現は取ってもいいかもしれない。今まで効果があったので持続させるというのがこの提言であり、「捉われず」という言葉は不要かもしれない。(事務局)</p> <p>⇒来年度は行政改革推進委員会に外部評価の視点を取り入れたいと考えている。こういった形で見てもらうとなると、難しい。やはり、事業をピックアップして委員からヒアリングする形が良いと思う。来年度は行政改革推進委員会の任期が1年のため、試行的に手探りで実施しようと現実的には考えている。提言には具体的に入れたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、事務事業を統合して減った。しかしながら予科練平和記念館にしても、図書館にしても、学校給食センターにしても、物品購入はこの事業、運営はこの事業と分かれていた。目的は1つなのに、その事業だけを一生懸命になってしまうと目的を忘れてしまう。今回、外部評価によって細分化しすぎていると提案し、少なくなった。担当課から自主的な改善提案を出すというのもなかなか難しいだろう。</li> </ul> <p>⇒来年度実施する際には、今までは課長までの評価で終わっていたので、各部長に入ってもらおうというのも考えている。行政改革推進本部設置要綱では、補助組織を設置できるとされているので、町内部で事業の絞り込みなどを一部の部課長でできればと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部長まで上がった方が俯瞰して見られる。</li> </ul> <p>⇒提言の作り方も、職員の意識改革を一番に置いて、二番目に内部評価の精度を上げる、三番目として、外部の目でチェックしてもらおうとまとめれば整理できると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1番目の改善意識というのは具体的にはどういったことが入ってくるか。研修体系の充実などか。</li> </ul> <p>⇒職員個人の意識。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2番目の内部のところに部長職を含めた評価の話が入る。3番目には行革推進委員会を活用した外部評価。</li> <li>・内部監査部門の強化は含められるか。</li> <li>・3番目に入れることはできそうだが。</li> <li>・組織を変えなければならないから、難しいのでは。</li> </ul> <p>⇒提言なので、できることしか入れられないわけではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉として入っていれば、そういう方向からも検討できる気はする。入っていないければ検討の余地はない。提言にあるから全てを実行しなければならないものと</li> </ul>
--	--

は思っていない。一つのヒントとして、そこから考えてもらえれば良いと思う。全く実現できないものではなく、実現可能性のある、次の段階の提言としてまとめたい。事務局の考えもあって、それ以外にも意見があったので、それらを含めた形で整理できればと思う。

- 50 ページの 3 番、「町の意味決定に対する効力に関する課題」とあるが、意思決定というのは最終的に町民との意思決定だと思う。町の意味決定となると、役場の意思決定なのかと思うが、一般的には「町の」というのは町民も合わせての意思決定、つまり議会かと思った。勘違いしないような文章が良い。「事業の精度を向上させるための課題」のような、行政組織に入り込んだ言葉にした方が良い。本来、意思決定は町民であり、町民がこうしたいということに対して、行政職は僕として働くというのが職員の仕事。
- 外部評価の意見が、この後に反映できていない前提での課題になっている。外部評価では意見を言うだけで、実際の実行に移っていないのをどう解決するかという文脈。言っても反映できない摺合せは誰がやるのか。

⇒そこが課題点。

- 提言としてはもっともなことが出ているが、財政とかの問題でなかなか現実的に実行できない、そこをどう調整するか。どういう方向にするかは、町民が納得する方にしなければならないのが大前提。そこに行政として財政がこうだというのが入ってくると、二つの目で見なくてはならない。町民がそれを見てどう思うかと、実際それを舵取りする部分で、一つ上からまとめる人の評価が必要だということ。町民の意見も入らなければならないし、内部でもきちんとした体制をつくらなければならない。

⇒外部評価という形だと、附属機関という形になってしまう。行政改革推進委員会だとしても、附属機関にはなってしまう。意見を反映させる仕組みが必要だということが課題で、それを提言に入れられると良い。

- 解決できるのはどういうものかと言うと、財政や全部の部署を知った上で平たく見られる部署で、外部評価で言われた意見は正しいから、こうなさいと調整する人がいなければならないということか。

⇒そう。内部の組織になると思うが、そういう仕組みを構築するというのが 3 番目の提言。

- 今回の外部評価委員会は、町民とは少し離れている気がする。町民に出す前の外部評価。

⇒外部評価委員会の立ち上げの時は、町内部で事務事業評価を行っていて、その評価について、お手盛りになっていないか、評価が甘くなっていないかを外部の視点で見ただいて、その評価が正しいかどうかを評価してもらう委員会。議論の中では事業の可否に及んだものもあるが、最終的には内部評価について、検証するのが目的。

- 52 ページの 3 番で、拡大して継続への偏りというのがある。役所は仕事を増やそうという傾向がある。これは何とかの法則というのがある。拡大して継続が多く、その通りだと思う。それをチェックするには、強力な組織を作らないといけない。自発的に増やそうとするのは役所の本能で、法則として言われている。

- 役所は仕事を増やそうとしないと思う。外部評価が入ったから、前向きになったという解釈をしている。公務員は増やそうとしない、変えようとするのが良くないと言われていると思うが、そこにメスを入れようとしたのが行革では。

- 企業でもそうだが、新しい事業のニーズが来る。それはやらざるを得ないので、事業は追加されていく。別の事業を廃止しないと、パイが足りない。そこが知恵を絞るところ。

- 古いものは続けてしまう。

- それが内部の視点。中途半端にやっているならもっと大きくやりなさいという意見もあった。それを、外部評価で言われたから拡大すれば良いというのではなく、拡大する以上は、どこかを削らなくてはならない。他の事業をどうするのか

	<p>というのを、それぞれの部署に持ち帰って、そこは内部で検討してもらえない。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・提言の2番目に入れたい。内部を俯瞰することが必要だという意見があった。それに加えて、内部でのスクラップアンドビルドを十分に行うということ。</li><li>・本来、外部評価委員会の趣旨は、スクラップではない。あくまで、効果や評価内容を評価するもの。範疇外かもしれない。</li></ul> <p>⇒財政課では、来年度の予算編成に関して、職員に対して、限られた財源の中でいかに、必要な事業、不要な事業を精査するかというのを説明した。財政課の立場としては、こういった部分を取り入れていかないと、財政運営が成り立たなくなってしまうので、強調して欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今回は、評価の評価ではあったが、事業の方向性に踏み込んだ話もしていたので、そのような趣旨の言葉が入っても良いと思う。</li></ul> <p>⇒今までの流れでは、外部評価委員会を立ち上げる前の2年間は事業仕分けを行い、事業の可否について議論をした。次は内部評価が正しく行われているかという部分で、外部評価委員会を立ち上げた。次の展開となれば、事務局で考えているのは、事業の可否、スクラップにつながるような方向に持っていきたいと考えている。</p>
--	--